

令和3年度
第2回 栗東市上下水道事業審議会

栗東市上下水道事業所

目次

経営戦略における収支計画と実績値の比較	4
経営戦略における収支計画の見直し	8
重要指標の推移	11

経営戦略における収支計画と実績値の比較

栗東市水道事業経営戦略における収支計画と実績との差異は以下のとおりです

2017・2018年度の実績-計画の差異分析（収益的収支）

（単位：百万円）

年度		2017年度 (平成29年度)			2018年度 (平成30年度)		
		実績	計画	差異	実績	計画	差異
区分	1. 営業収益 (A)	1,108	1,107	1	1,107	1,084	23
	(1) 料金収入	1,076	1,076	0	1,081	1,051	30
	(2) 受託工事収益	8	9	▲1	3	9	▲6
	(3) その他	22	21	1	21	21	▲0
	(4) 他会計負担金	2	1	1	2	3	▲0
	2. 営業外収益 (B)	122	119	3	117	110	7
	(1) 他会計負担金	3	3	-	3	3	▲0
	(2) 長期前受金戻入	116	114	2	112	104	8
	(3) その他	2	2	0	2	3	▲0
	収入計 (C)	1,230	1,226	4	1,224	1,194	30
収益的支出	1. 営業費用	1,155	1,167	▲11	1,122	1,105	17
	(1) 職員給与費	84	90	▲6	79	90	▲11
	基本給	41	41	▲0	38	41	▲3
	退職給付	6	5	1	5	6	▲0
	その他の費用	37	44	▲7	36	43	▲7
	(2) 経費	677	682	▲6	650	623	27
	動力費	66	68	▲2	68	66	2
	修繕費	59	67	▲8	47	46	1
	その他の費用	552	547	5	535	511	24
	(3) 減価償却費	395	395	▲0	393	392	1
2. 営業外費用	(1) 支払利息	49	50	▲0	47	53	▲6
	(2) その他	49	49	-	47	51	▲4
	支出計 (D)	1,205	1,217	▲12	1,169	1,158	11
経常損益	(E)	25	9	16	55	36	19
	(F)	4	-	4	3	-	3
	(G)	-	-	-	-	-	-
	(H)	4	-	4	3	-	3
特別利益	(I)	-	-	-	-	-	-
特別損益	(J)	-	-	-	-	-	-
当年度純利益（又は純損失）	(E)+(H)	29	9	20	58	36	22

主な差異要因についてのコメント

■ 収益的収入

- 料金収入：(2018年度) + 30百万円
計画では、大口利用者の移転を見込み、収入を13百万円減少させていたことによる上振れ。その他、給水人口及び有収水量の増加により、料金収入が + 17百万円。
- 受託工事収益：(2018年度) ▲6百万円
計画時の見込みよりも、受託工事が生じたことによる影響。
- 長期前受金戻入：(2018年度) + 8百万円
計画時の見込みから、工事負担金等の固定資産の取得財源の変更による影響。また、当年度における固定資産の除却による影響。

■ 収益的支出

- 職員給与と費：(2017年度) ▲6百万円、(2018年度) ▲11百万円
人員構成等による影響。
- 経費：(2017年度) ▲6百万円、(2018年度) + 27百万円
2017年度は、計画時の見込みよりも、修繕が生じたことにより ▲8百万円となったことによる影響。2018年度は、経費その他（受水費、委託料、請負費等）で + 24百万円となったことによる影響。

※ 特別利益

- 2017年度～2020年度の特別利益は、退職給付引当金が積立超過になったことによる戻入。

※5百万円以上の増減項目

栗東市水道事業経営戦略における収支計画と実績との差異は以下のとおりです

2019・2020年度の実績-計画の差異分析（収益的収支）

主な差異要因についてのコメント

（単位：百万円）

年度		2019年度 (令和元年度)			2020年度 (令和2年度)		
区分		実績	計画	差異	実績	計画	差異
収益的収入	1. 営業収入 (A)	1,096	1,068	28	1,052	1,067	▲15
	(1) 料金収入	1,068	1,034	34	1,024	1,033	▲9
	(2) 受託工事収入	5	10	▲5	5	10	▲5
	(3) その他	21	21	▲0	21	21	▲0
	(4) 他会計負担金	2	3	▲1	2	3	▲1
	2. 営業外収益 (B)	113	106	7	106	103	3
	(1) 他会計負担金	2	2	▲0	2	2	0
	(2) 長期前受金戻入	109	101	8	103	99	4
	(3) その他	2	3	▲1	1	2	▲1
	収入計 (C)	1,209	1,174	35	1,158	1,170	▲12
収益的支出	1. 営業費用	1,104	1,106	▲2	1,107	1,117	▲10
	(1) 職員給与	70	90	▲20	56	90	▲34
	基本給	33	41	▲8	27	41	▲14
	退職給付	5	6	▲1	4	6	▲2
	その他	32	43	▲11	25	43	▲18
	(2) 経費	645	624	21	656	624	32
	動力費	66	67	▲1	62	67	▲5
	修繕費	49	46	3	55	46	9
	その他	530	511	19	539	511	28
	(3) 減価償却費	389	392	▲3	395	403	▲8
	2. 営業外費用	45	53	▲8	42	51	▲9
	(1) 支払利息	45	51	▲6	42	50	▲8
	(2) その他	0	2	▲2	0	1	▲1
	支出計 (D)	1,149	1,159	▲10	1,149	1,168	▲19
	経常損益 (C)-(D) (E)	60	15	45	9	2	7
特別利益 (F)	13	-	13	14	-	14	
特別損失 (G)	-	-	-	-	-	-	
経常利益 (E)+(G) (H)	13	-	13	14	-	14	
当年度純利益（又は純損失） (E)+(H)	73	15	58	23	2	21	

■ 収益的収入

- 料金収入：(2019年度) + 34百万円、(2020年度) ▲9百万円
2019年度の増加は、計画では大口利用者の移転を見込み、収入を26百万円減少させていたことによる上振れ。その他、給水人口及び有収水量の増加により、料金収入が + 8百万円。2020年度の減少は、新型コロナウイルスのため、6・7月分の基本料金を減免したことによる減少。

- 受託工事収益：(2019・2020年度) ▲5百万円

計画時の見込みよりも、受託工事が生じなかったことによる影響。

- 長期前受金戻入：(2019年度) + 8百万円

計画時の見込みから、工事負担金等の固定資産の取得財源の変更による影響。また、当年度における固定資産の除却による影響。

■ 収益的支出

- 職員給与と費：(2019年度) ▲20百万円、(2020年度) ▲34百万円
人員構成等による影響。

- 経費：(2019年度) + 21百万円、(2020年度) + 32百万円
2018年度は、その他（受水費、委託料、請負費等）で + 19百万円となったことによる影響。2019年度は、動力費が ▲5百万円となったものの、その他で + 28百万円となったことによる影響。

- 減価償却費：(2020年度) ▲8百万円

工事の後ろ倒し、変更等による影響。

- 支払利息：(2019年度) ▲6百万円、(2020年度) ▲8百万円
工事の後ろ倒し、変更等により起債額が減少したことによる影響。

栗東市水道事業経営戦略における収支計画と実績との差異は以下のとおりです

2017・2018年度の実績-計画の差異分析（資本的収支）

主な差異要因についてのコメント

■ 資本的収入

- 企業債: (2017年度)▲64百万円、(2018年度)+9百万円
工事の後ろ倒し、変更等による影響。
- 工事負担金: (2018年度)▲11百万円
計画時の見込みよりも、工事負担金・加入金が生じなかったことによる影響。

■ 資本的支出

- 建設改良費: (2017年度)▲152百万円、(2018年度)▲147百万円
工事の後ろ倒し、変更等による影響。
 - 経費修繕費: (2017年度)▲8百万円
計画時の見込みよりも、修繕が生じなかったことによる影響。
 - 経費 その他: (2017年度)+5百万円、(2018年度)+24百万円
- 企業債残高: (2018年度)+11百万円
工事の後ろ倒し、変更等による影響。
- 資金残高: (2017年度)+79百万円、(2018年度)+303百万円
計画よりも最終損益が+20百万円程度となっていることに加えて、工事の後ろ倒し・変更等による影響、未収金・未払金の支払タイミングによる変動。

(単位: 百万円)

年度		2017年度 (平成29年度)		2018年度 (平成30年度)	
区分		実績	計画	差異	差異
資本的収入	1. 企業債	170	234	▲64	9
	うち資本費平準化債	-	-	-	-
	2. 他会計補助金	-	-	-	-
	3. 他会計負担金	12	11	1	0
	4. 工事負担金	86	86	0	▲11
資本的支出	5. その他	-	-	-	-
	計 (A)	268	331	▲63	▲2
	(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B)	61	-	61	119
	純計 (A)-(B) (C)	207	331	▲124	▲121
	1. 建設改良費	573	725	▲152	▲147
資本的収支	2. 企業債還金	119	119	0	0
	3. その他	-	-	-	▲1
	計 (D)	692	844	▲152	▲148
	資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (D)-(C) (E)	485	513	▲28	▲27
企業債	債残高 (F)	3,250	3,247	▲3	11
資金	残高 (G)	1,731	1,652	79	303

栗東市水道事業経営戦略における収支計画と実績との差異は以下のとおりです

2019・2020年度の実績-計画の差異分析（資本的収支）

主な差異要因についてのコメント

■ 資本的収入

- ▶ 企業債：(2020年度)▲72百万円
工事の後ろ倒し、変更等による影響。
- ▶ 工事負担金：(2019年度)＋10百万円、(2020年度)▲12百万円
工事負担金・加入金の年度による変動。

■ 資本的支出

- ▶ 建設改良費：(2019年度)＋85百万円、(2020年度)▲67百万円
工事の後ろ倒し、変更等による影響。
- 企業債残高：(2019年度)＋13百万円、(2020年度)▲58百万円
工事の後ろ倒し、変更等による影響。

■ 資金残高

計画よりも最終損益が2019年度で＋58百万円、2020年度で＋21百万円程度となっていることに加えて、工事の後ろ倒し・変更等による影響、未収金・未払金の支払タイミングによる変動。

(単位：百万円)

年度		2019年度 (令和元年度)				2020年度 (令和2年度)			
		実績	計画	差異	実績	計画	差異		
区分	1. 企業	300	298	2	129	201	▲72		
	うち資本費平準化債	-	-	-	-	-	-		
	2. 他会計補助金	-	-	-	-	-	-		
	3. 他会計負担金	12	12	▲0	15	14	1		
	4. 工事負担金	95	85	10	73	85	▲12		
5. その他		-	-	-	-	-	-		
計 (A)		407	396	11	217	300	▲83		
(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B)		76	-	76	-	-	-		
純計 (A)-(B) (C)		331	396	▲65	217	300	▲83		
1. 建設改良費		1,058	973	85	591	658	▲67		
2. 企業債償還金		161	161	0	169	169	-		
3. その他		-	1	▲1	-	1	▲1		
計 (D)		1,219	1,135	84	760	828	▲68		
資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (E)		888	739	149	543	528	15		
企業債残高 (F)		3,469	3,456	13	3,430	3,488	▲58		
資金残高 (G)		1,510	993	517	1,220	771	449		

■ 総括

実績値は、収支計画よりも改善していますが、資金残高は2017年度から2020年度にかけて5.1億円減少しており、現状のままでは、将来に資金ショートが生じることが見込まれます。

また、料金収入の実績値の上振れは、収支計画において、大口利用者の移転を見込んでいたものの、実際には移転が生じなかったことが主な要因です。しかし、来年度以降、大口利用者が地下水利用へ転換する可能性が高く、料金収入は減少することが見込まれています。

資本的収支においては、建設改良費に係る工事の後ろ倒し・変更等により変動していますが、必要な工事総額に大きな変更はなく、現状のままでは、工事に必要な資金が不足することが見込まれます。

経営戦略における収支計画の見直し

実績及び経営環境の変化を見込み更新した収支計画は以下のとおりです

2021-2030年度の収支計画（収益的収支）

2023年度に25.5%の料金改定
を実施したと仮定

（単位：百万円）

区分	年度									
	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
収益的収入	1. 営業収入	1,129	1,090	1,323	1,323	1,316	1,313	1,310	1,311	1,302
	(1) 料金収入	1,103	1,061	1,296	1,296	1,289	1,285	1,282	1,283	1,275
	(2) 受託工事収益	6	5	4	4	4	4	4	4	4
	(3) その他	17	20	20	20	20	20	20	20	20
	(4) 他会計負担金	2	2	2	2	2	2	2	2	2
収益的支出	2. 営業外収入	103	99	98	96	96	94	93	91	85
	(1) 他会計負担金	1	1	0	0	0	0	0	-	-
	(2) 長期受入金戻	100	98	97	95	95	94	92	91	84
	(3) その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0
収益的収支	収入計(C)	1,232	1,189	1,422	1,420	1,412	1,407	1,403	1,402	1,388
	1. 営業費用	1,125	1,216	1,219	1,215	1,214	1,213	1,207	1,205	1,214
	(1) 職員給与	68	70	81	81	81	81	81	81	81
	基本給	28	30	35	35	35	35	35	35	35
	退職給付	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	その他の費用	34	35	41	41	41	41	41	41	41
	(2) 経費	667	707	682	682	682	682	682	682	682
	動力費	68	64	68	68	68	68	68	68	68
	修繕費	60	70	52	52	52	52	52	52	52
	その他の費用	538	572	561	561	561	561	561	561	561
経常損益	(3) 減価償却費	390	437	455	451	450	449	443	441	450
	2. 営業外費用	41	39	37	35	34	32	31	30	27
	(1) 支払利息	39	38	37	35	33	31	30	29	27
	(2) その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	支出計(D)	1,167	1,255	1,256	1,251	1,248	1,246	1,238	1,235	1,241
特別損益	経常損益 (C)-(D) (E)	65	▲66	165	169	163	161	165	167	146
	特別利益 (F)	1	-	-	-	-	-	-	-	-
特別損益	特別損失 (G)	0	0	-	-	-	-	-	-	-
	特別損益 (F)-(G) (H)	1	▲0	-	-	-	-	-	-	-
当年度純利益 (又は純損失) (E)+(H)		67	▲66	165	169	163	161	165	167	146

出所：栗東市水道事業経営戦略・決算書切捨表示

実績及び経営環境の変化を見込み更新した収支計画は以下のとおりです

2021-2030年度の収支計画（資本的収支）

(单位:百万円)

区分		年度	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	
資本的収支	資本的収入	1. 企業費平準化債	271	393	245	130	180	137	217	237	161	189	
		うち資本費平準化債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		2. 他会計補助金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		3. 他会計負担金	12	11	10	7	5	3	2	1	1	1	
		4. 工事負担金	100	82	80	80	80	80	80	80	80	80	
	資本的支出	5. その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		計 (A)	384	487	336	218	267	220	300	318	243	270	
		(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		純計 (A)-(B) (C)	384	487	336	218	267	220	300	318	243	270	
		1. 建設改良費	637	1,092	829	452	616	469	730	796	549	639	
資本的支出	2. 企業償還金	177	176	160	169	178	186	202	188	190	194		
	3. その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計 (D)	815	1,269	989	621	794	655	933	985	739	834		
	(E)	430	782	652	403	527	434	632	666	496	563		
	資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (D)-(C)												
企業償還金	3,523	3,739	3,825	3,786	3,788	3,739	3,754	3,802	3,774	3,769			
資金	1,192	772	708	860	898	1,014	954	869	926	923			

重要指標の推移

経営戦略で目標設定をした指標は以下のとおりです

用語・指標の説明

料金収入

水道の使用量に応じて徴収している水道料金です。使用量にかかわらず発生する基本料金と使用量に応じて増減する従量料金から構成されています。

経常収支比率：（経常収益÷経常費用）×100

水道料金等の収益で維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標です。

この指標が100%以上となっていないければ、収支が赤字となっており、経営改善の取り組みが必要と考えられます。また、100%以上であればよいというものではなく、将来の投資等が予定されている場合、投資の財源を確保しておく必要があることから、適切な経常収支比率の水準は団体ごと異なります。

料金回収率：（供給単価÷給水原価）×100

水道水を提供している単価（水道料金）と水道水を提供するための費用との関係を表す指標です。

この指標が100%以上となっていないければ、水道水を提供するための費用を水道料金で回収できていないことになります。また、経常収支比率と同様に、将来の更新投資等に備えるという観点から、適切な料金回収率の水準は団体ごと異なります。

企業債残高対給水収益比率：

$$(\text{企業債残高} \div \text{給水収益}) \times 100$$

水道料金による収入に対して、企業債（負債）の規模がどれくらいであるかを表す指標です。

必要な投資を適時に行っているかなどによって影響を受けるため、この指標も低い方がよいとは一概に言えません。本市においては、300%程度の水準となっており、これは滋賀県内の団体平均よりも低く、財務状態は安定していると考えられます。

資金残高

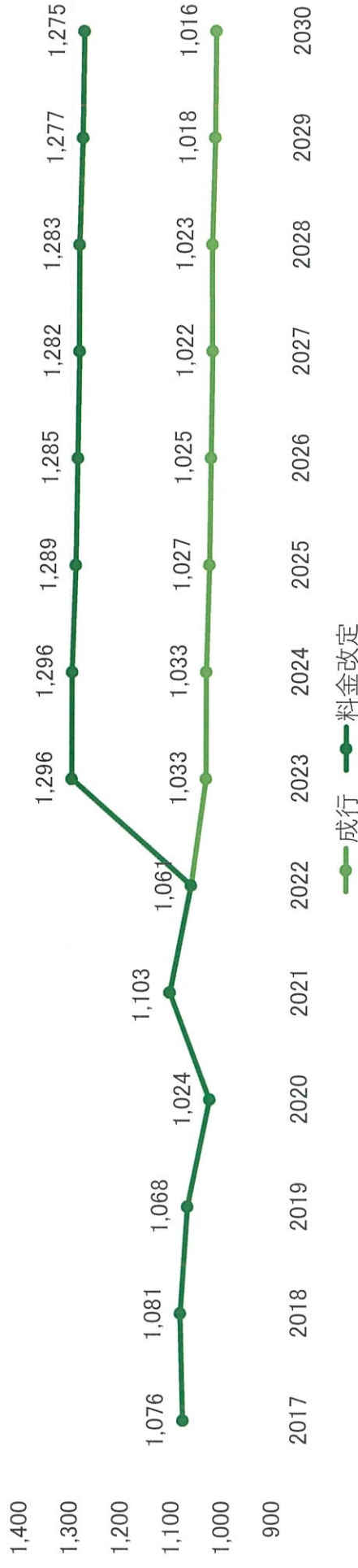
水道事業を運営していくにあたって、必要となる費用・投資等の支払いに充てるものです。

必要な資金の水準は、将来の投資等によるため、団体ごとに異なります。本市においては、取水から料金回収までの期間が4～6カ月であることから、経常費用の6カ月分の資金を確保することを目標としています。

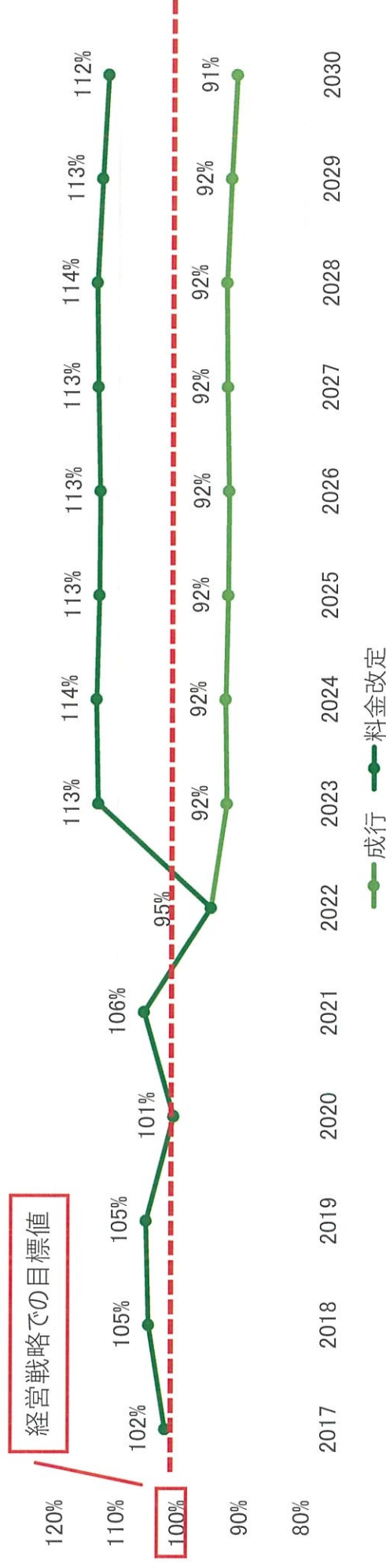
料金収入及び経営戦略に目標を記載した指標の推移は以下のとおりです

①料金収入の推移（成行対25.5%改定）

単位：百万円

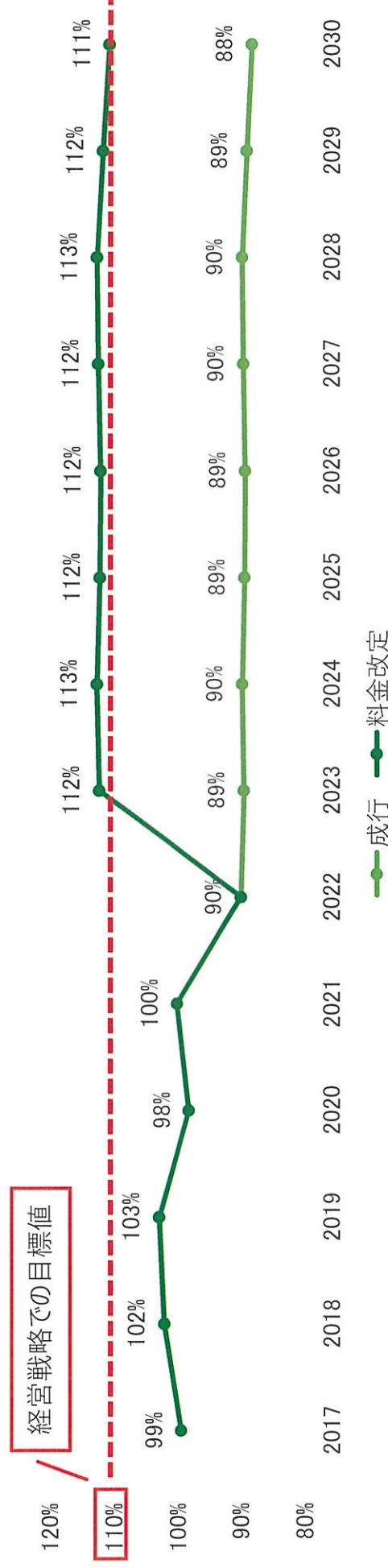


②経常収支比率の推移（成行対25.5%改定）

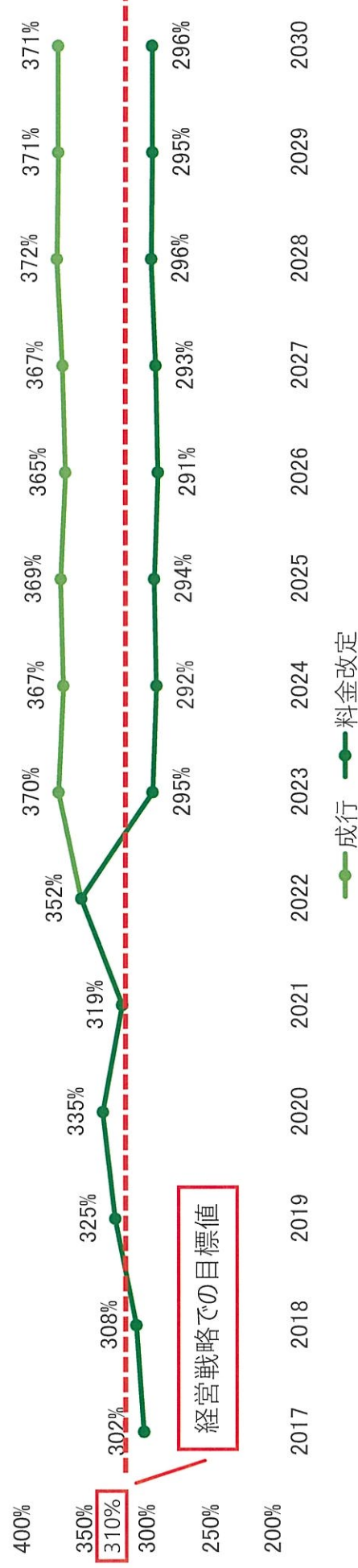


経営戦略の目標値を記載した指標の推移は以下のとおりです

③料金回収率の推移（成行対25.5%改定）



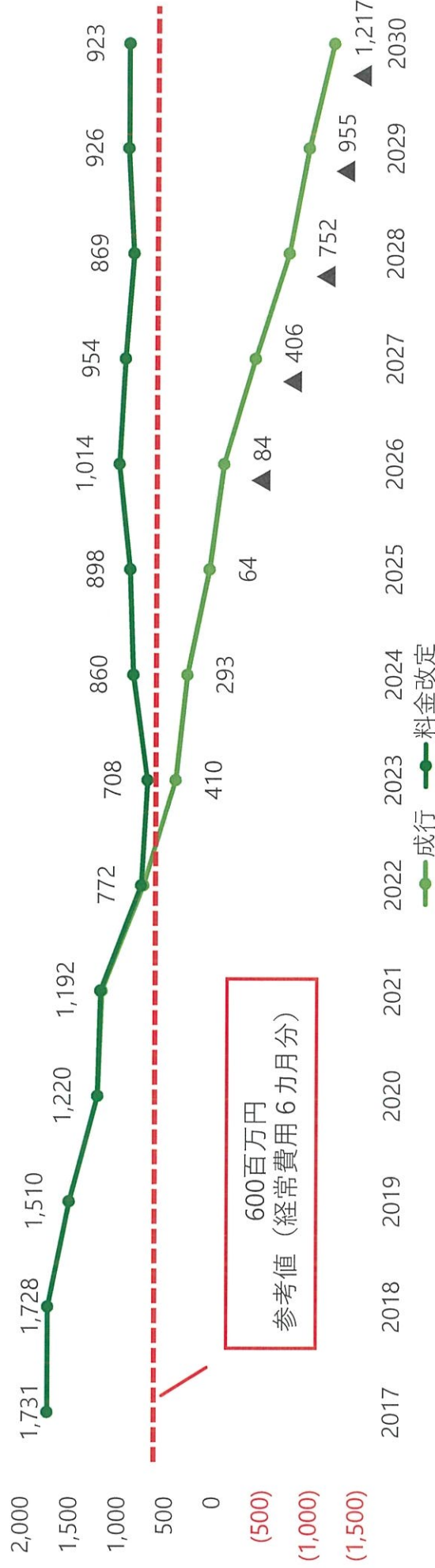
④企業債残高対給水収益比率の推移（成行対25.5%改定）



経営戦略の目標値を記載した指標の推移は以下のとおりです

⑤資金残高の推移（成行対25.5%改定）

単位：百万円



■ 料金収入

25.5%の料金改定により、成行では10億円程度で推移する収入が、13億円程度で推移し、十分な収入を確保することができます。

■ 経常収支比率

25.5%の料金改定により、経営戦略に掲げた目標値100%を将来にわたっても達成することができます。

■ 料金回収率

25.5%の料金改定により、経営戦略に掲げた目標値110%を将来にわたっても達成することができます。

■ 企業債残高対給水収益比率

25.5%の料金改定により、経営戦略に掲げた目標値310%以下を将来にわたっても達成することができます。

■ 資金残高

25.5%の料金改定により、運転資金として6億円以上を維持することができ、水道事業の経営が安定します。

